

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月 17日

事業所名 放課後等デイサービス れいる

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80%	20%	0%	利用者に合わせてグループ分けをして活動を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	0%	80%	20%	利用者の特性に合わせての対応だと足りない時がある。	指定基準は満たしていますが、個別支援を充実させていくためには職員の採用も検討できればと思います。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	20%	60%	20%	段差があり、つまづく利用者もいる。	段差へはマットなどを使用し保護したり、常に危険個所の把握、対策をしていきます。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	60%	40%	0%	常に職員間で話し合いを持っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%	0%	なるべく希望に添えるように努力している。 アンケート以外でも対応している。 土曜の開所を実施した。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	60%	20%	20%		玄関掲示、ホームページ公表をしていますが職員への周知も合わせて行いたいと思います。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%	0%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	0%	オンラインでの研修の参加を充実させている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	60%	40%	0%	利用者のニーズを可視化できているが、改善を繰り返し、より良いものを作っていきたい。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60%	40%	0%		

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	0%	特性に合わせて立案できるか相談確認している。利用者への聞き取りもしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	60%	40%	0%	身につける為の活動の繰り返しはある。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	40%	40%	20%	きめ細かいの程度に合っているか分からない。	活動時間の長さや時期で、目的を設定して支援にあたっています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	利用者に合わせて集団の人数設定を行い、対応している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	毎日の昼礼で確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60%	20%	20%	終礼の実施ができないため、翌日に必ず共有している。	全職員で前日の振り返りをし、必要に応じて検討すべき内容を話し合っています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	60%	40%	0%	毎日、話し合いは行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	0%	保護者の意向も確認し、定期的実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	60%	40%	0%	利用者や職員が楽しく過ごせるように努力している。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	40%	60%	0%		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	60%	20%	母との伝達、連携は取れている。	看護師の配置は出来ませんが、保護者と連携をとり、都度協力してもらっています。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	20%	40%	40%	必要に応じて確認を取っている。	会議の実施まで至らない場合がありますが、終了時の報告などを持参下さり、情報の共有が出来る時もあります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	20%	80%	0%	小学生を対象とした事業所なため、中高生を対象とした事業所への移行のときに、会議を実施している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	40%	40%	20%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	0%	80%	交流がメリットとなる利用者が少ない。	必要に応じて検討したいと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	20%	60%	20%	放課後等デイサービスの連絡会に毎回参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	80%	20%	0%	申し送りなどで行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20%	60%	20%	助言等は行っている。	困り事への対応等は常にさせてもらってましたが、ペアレントトレーニングの知識が薄いため、今後強化していこうと思います。
保護	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	60%	40%	0%	契約時や変更時に書面などで説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	60%	20%	20%	困りごとがあったときは、直接対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20%	40%	40%	コロナの為、できていない。	マスク着用の基準が緩和され、感染対策は引き続き実施しつつ、次年度は開催を視野に入れています。

者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	60%	40%	0%	要望があったときは、可能な限り早めの対応をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	80%	20%	0%	事業所での表情や活動の様子が伝わるようにしている。広報を発行している。	年4回、広報を発行しています。避難訓練実施のお知らせも配布しています。
	35	個人情報に十分注意している	80%	20%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80%	20%	0%	相手分かりやすい方法で伝達している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20%	20%	60%	コロナの為できていない。	招待出来る行事の実施がありませんが、避難訓練等の実施を周知するなど地域の方への発信はしていきたいと思います。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	60%	40%	0%	保護者への周知ができていないか分からない。	保護者への周知まで至っていませんでした。気軽に閲覧できる環境を作り、周知を促していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	0%	子ども達に理解しやすいように視覚的に提示している。火災、水害、地震の避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	0%	オンラインを含め、研修への参加をしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	60%	40%	0%	計画に記載しなければならぬ利用者はいませんでした。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	0%	保護者からの聞き取りで一覧を作成し、都度確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	事例検討会を実施している。	